

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-161	高等学校	外国語科	コミュニケーション 英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
109文英堂	コ I 345	NEW EDITION UNICORN English Communication 1		

1 編修の趣旨及び留意点

中学校の学習と緊密に連絡し、英語の諸能力を修得させるとともに、学習指導要領に示された目標である、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」ことを主たる目標とした。

英語を通じてのコミュニケーション能力を養成するために、随所にリスニングやスピーキングの機会を設けたほか、4技能を総合的に学ぶことができるようなコミュニケーションに特化したページを設けた。また英文を読んだあとでペアを組んで互いに質問を出し合い、習得した英語を用いて相手の意見や経験を尋ねたり、自分の意見や経験を表現したりする練習の場を設けた。

2 編修の基本方針

教育基本法第2条に示された目標を達成することを目指し、以下の諸点に留意した。

各課への学習目標が明確に分かるように本文冒頭にTARGETを3, 4つ提示し、4技能を通じて目標に達成するためのさまざまな活動を用意した。

題材や内容の選別にあたっては、学習者一般の生活環境に合うと同時に、全体のバランスにも留意した。題材にはエッセイ、物語、説明文、論説など多様な形式の英文を選定し、その内容についても職業、時事問題、異文化、資源、伝記、科学、文学、環境など広く各部門に及ぶように留意した。国内外を問わず、かつ特定の分野や思想に偏らないよう留意し、多様なものの見方や考え方を育み他国の文化を尊重するグローバルな視野の獲得を目指した。

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>LESSON 1 I Am a Photojournalist</p> <p>パキスタンの女性迫害，キルギスの略奪婚などで世界的に知られる写真家林典子さんが，被写体の人たちとのコミュニケーションの取り方や，写真を通して訴えたいことを語る。</p>	<p>国際的に活躍する女性ジャーナリストの話を読むことにより，多様な生き方や考え方を学ぶと共に，自らの将来について考える契機となるよう，冒頭の課に配置した。(第1号)(第2号)</p>	<p>8-19頁</p>
<p>LESSON 2 Holmes and Watson</p> <p>誕生から130年経った現在でも世界で愛読されている「シャーロック・ホームズ」。時代とともにいろいろな形で絶えず再生し続けている。</p>	<p>娯楽も文化の果実である。国境を越えて豊かな世界を作り出している代表例について読むことによって，多様な価値観と広い視野を持つ契機とする。(第1号)</p>	<p>20-31頁</p>
<p>LESSON 3 Alma Rosé</p> <p>アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所には，捕虜によるオーケストラがあった。その指揮者となったユダヤ人ヴァイオリニスト，アルマ・ロゼの悲劇的な人生について読む。</p>	<p>人種ゆえに不当な差別・迫害を受け，命を失った人物の伝記を読むことによって，正義や平等，生命の尊厳について考える。(第3号)(第4号)</p>	<p>32-45頁</p>
<p>LESSON 4 Forests for the Future</p> <p>無数の固有種を持つことで知られるマダガスカルでは，その代表種のバオバブやシファカが絶滅の危機に瀕している。開発により失われた森を取り戻すため，日本人ボランティアが活躍している。</p>	<p>貴重な自然が急速に失われつつある環境について知ると共に，それを守るため，遠く日本から活動に参加している人たちについて読んで，考える。(第4号)(第5号)</p>	<p>46-59頁</p>
<p>LESSON 5 Methane Hydrate</p> <p>近年話題となっている次世代のエネルギー資源メタンハイドレート。日本近海に豊富に存在していることが分かり，国家プロジェクトが動き出している。</p>	<p>新しい科学技術によって，わが国のエネルギー問題に光明が得られるかもしれないという記事を読む。その一方で環境問題などへの配慮も考える。(第1号)(第4号)</p>	<p>62-75頁</p>
<p>LESSON 6 El Sistema: The Miracle of Music</p> <p>貧富の差が激しいヴェネズエラ。貧しい子どもたちにも無償で楽器を貸し与え音楽を教える「エル・システム」が誕生した。</p>	<p>貧困で苦しむ子どもたちが，音楽によって人生を切り拓いていく話を読む。(第2号)</p>	<p>76-89頁</p>
<p>LESSON 7 Why Are You Sleepy?</p> <p>なぜ動物は眠るのだろうか。この謎はいまだ解明されていない。しかし近年の研究により，睡眠の効能や睡眠のパターンが年代によって異なるという事実が分かった。</p>	<p>身近な睡眠の問題を取り上げ，科学的な思考力を養うとともに，若者自らの健康問題についても考える。(第1号)</p>	<p>90-103頁</p>

<p>LESSON 8 Haruki Murakami Abroad</p> <p>村上春樹の小説は日本人に人気があるだけでなく、世界中で広く読まれている。カナダ人文学者が、村上作品の魅力と海外での受容のされ方について語る。</p>	<p>世界に広く、深く受け入れられている日本文化について、代表例を通して考える。(第5号)</p>	<p>106-119頁</p>
<p>LESSON 9 Vertical Farming</p> <p>爆発的な人口増加によって、近い将来懸念される食糧問題。農地不足の解決策として、都会の真ん中に建てた巨大ビルで作物を栽培する「垂直農業」が考案された。</p>	<p>人類や地球環境を破滅させかねない人口増加と食糧問題を取り上げ、環境について考える。(第4号)</p>	<p>120-133頁</p>
<p>LESSON 10 Words and You</p> <p>私たちは言葉を使って他人とのコミュニケーションを図るが、ときに誤解が生じてしまう。友達との人間関係に悩む高校生に、文学が救いの手を差し伸べる。</p>	<p>多感な時期の学習者に、知識に偏重せず、教養を身につけ、豊かな情操を培うことの大切さを伝える。(第1号)(第2号)</p>	<p>134-145頁</p>
<p>FOR READING Homage for Isaac Babel</p> <p>13歳の少女キャサリンが、密かに憧れる少年の学校を訪ねる小旅行の中で、現実世界の姿を垣間見る。ノーベル文学賞作家ドリス・レスリングによる短編小説。</p>	<p>奥深い内容を持つ文学作品の鑑賞を通して、豊かな情操を養う。(第1号)</p>	<p>146-155頁</p>

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

指導要領に示された英語での授業を前提とし、日本語の使用はできる限り避けた。たとえば問題の指示文は英語に統一し、教師が英語で問いかけ生徒もまた英語で答えるように意図し、外国語を通じてコミュニケーションをとる授業の形態を想定した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-161	高等学校	外国語科	コミュニケーション 英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
109文英堂	コ I 345	NEW EDITION UNICORN English Communication 1		

1 編修上特に意を用いた点や特色

種目名に「コミュニケーション」を冠した教科書として、社会生活の根底といえる他者とコミュニケーションをとる能力の養成に重きを置き、生徒の生きる力を育むことを主たる目標とした。

上記目標の実現のために、コミュニケーションに必要なと思われる判断力や表現力はもちろんのこと、外国語を学ぶ以上不可欠である文法や語彙などに関する基礎的な知識及び技能について網羅し、生徒が興味を持って学習に取り組むことができるよう多様な題材や内容を用意した。

教科書の構成は次の(1)～(4)のとおりである。

(1) 正課 LESSONS 1-10 : 各課の構成と特色

1 WARM-UP



A 読解を深め、自己発信へ一無理なくステップアップできるよう、さまざまな工夫を加えた。

1 WARM-UP

本文を読む前の準備として、本文の内容と関連した写真や地図とリスニング問題を置き、この課で扱う主題への関心を高めるように意図した。

2 本文

① TARGET : 本文学習にあたって、本文理解から自己発信へ進む目標として各課に設定した。

② READING POINT : 各パートに本文読解にあたって、助けとなるような指針を置いた。

③ QUESTIONS : 原則として各パラグラフに本文の内容理解を確認するとともに簡単な発信を促すための英問を置いた。

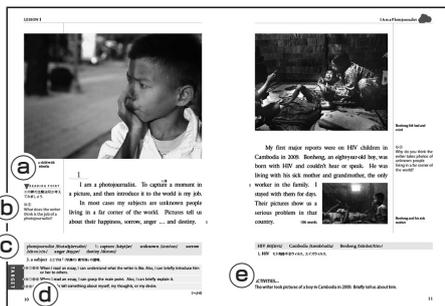
④ ACTIVITIES : 各パートの最後に、本文の内容に関連して考えたり発信したりする活動を入れた。

3 COMPREHENSION & COMMUNICATION

① COMPREHENSION : リスニングによる正誤問題と内容理解問題によって、本文全体の理解を確認する。

② COMMUNICATION : 本文理解を受け、さらに一歩進める自己発信活動をする。コミュニケーション的な活動を行うときに役立つ表現を Useful Expressions for Communication として、各課に1項目ずつ設定した。

2 本文



B 語彙運用力の増強—総合力を高めるための工夫を加えた。

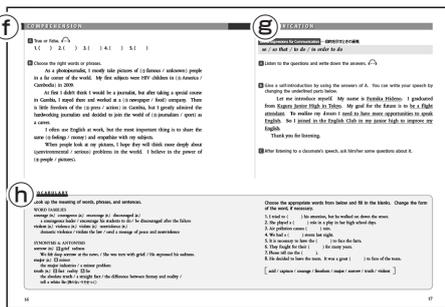
2 本文

① 脚注新出語欄 : 新出語のうち、ぜひ運用力まで付けたい重要語は太字にして他と区別した。

3 COMPREHENSION & COMMUNICATION

① VOCABULARY : 重要語のうち数語を選び、関連語、同意語・反意語をまとめて覚えると同時に、自然でよく使われる意味の文を利用した問題を解く。

3 COMPREHENSION & COMMUNICATION



4 LANGUAGE FOCUS

The screenshot shows a page with several sections: 'EXERCISES' with multiple-choice questions, 'STRUCTURE' with a list of verbs and their forms, and 'VOCABULARY' with a list of words and their meanings. There are also some small illustrations and a 'PRACTICE' section with a short text passage.

4 LANGUAGE FOCUS

④ SOUND PRACTICE：高校生に欠かせない発音を整理・練習する場。日本人の発音における呼気の弱さに配慮して、子音の発音から入り、母音の発音へと進めた。

C 文法運用力の定着—総合力を高めるための工夫を加えた。

2 本文

本文中において、その課のポイントとなる新出文法事項が出現した箇所に行間にLマークを置いた。



4 LANGUAGE FOCUS

① STRUCTURE：中学校で既習の事項に当該の課で初出となる文構造及び文法事項を加え、体系的に整理した。

① EXERCISES：STRUCTUREで学習した文構造及び文法事項ごとに異なる形式の演習問題を配置し、習得できたかどうかチェックする。文法のための文法問題を排し、ふさわしい文の中で習得できるようにした。

D 本課での学習成果をフォローする特別ページと付録

(2) BUILDUP：全3回。英語を読んだり話したりする力を伸ばすための特別ページ。

- ① FOR BETTER READING：読解力を高めるためのリーディングスキルを置いた。
- ② EXPANDING VOCABULARY：単語の意味を推測し、語いを拡充する場を設けた(接頭辞/接尾辞/意味の推測)。
- ③ FOR PRESENTATION：発表活動をする際の準備や実践の仕方を紹介した。

(3) FOR READING：既習の文法事項の範囲内で読むことができる教材を用意した。本文読解後のCOMPREHENSIONでは、物語の内容や登場人物の心情などについて深く考えることを促す設問も置いた。

(4) 巻末付録：参考資料、索引として以下のものを用意した。

- ① EXPRESSIONS FOR COMMUNICATION (機能表現集)：全巻を通じてコミュニケーションを行う際に有用な表現を場面別に提示した。
 - ② SENTENCES (重要文構造・文法のまとめ)：各課LANGUAGE FOCUSに置いた例文を、文法項目ごとに整理し直して提示した。暗唱用例文集としても、文法索引としても役に立つ。
 - ③ PHRASE LIST：中学既習と見なした慣用語句及び本文脚注に示した語句をアルファベット順に並べて示した。
 - ④ WORD LIST：中学既習と見なした1200語余及び本文の新出単語をアルファベット順に並べて示した。
- a. 不規則変化語には変化形も掲載、b. -ness, -er, -ing, -ful, -lyなどの最も基本的な派生語のうち主なもの併記、c. 重要語を太字で表示など、単なるリストでなく、語彙力増強に役立つ場所とした。

2 対照表

コミュニケーション英語 I の「内容」

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

- ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。
- ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。
- エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
LESSON 1		8-17頁	7
WARM-UP 本文	ア(写真の説明を聞いて概要をとらえる) イ(エッセイを読んで概要をとらえる) ウ(自分自身や考え、願望について伝える)		
COMMUNICATION	ウ、エ(自己紹介をする)		
LESSON 2		20-29頁	7
WARM-UP 本文	ア(会話を聞いて概要をとらえる) イ(ある主題の文を読んで情報を理解する) ウ(ある主題について具体例を加えながら発表する)		
COMMUNICATION	ウ、エ(自分の余暇の時間について発表したり書いたりする)		

LESSON 3		32-43 頁	7
WARM-UP 本文	ア(写真の説明を聞いて概要をとらえる) イ(伝記を読んで概要をとらえる) ウ(伝記を読んで、できごとや登場人物について説明する)		
COMMUNICATION	ウ、エ(ある人物の生涯を発表したり書いたりする)		
LESSON 4		46-57 頁	7
WARM-UP 本文	ア(写真の説明を聞いて概要をとらえる) イ(環境問題に関する文を読んで概要をとらえる) ウ(問題の原因、解決策について説明する)		
COMMUNICATION	ウ、エ(自分の地域の環境問題についての解決策について発表したり書いたりする)		
LESSON 5		62-73 頁	7
WARM-UP 本文	ア(写真の説明を聞いて概要をとらえる) イ(説明文を読んで賛成・反対双方の論点を特定する) ウ(自分の持っている知識を用いて問題点と解決策を話す)		
COMMUNICATION	ウ、エ(あるテーマについて賛成・反対を述べ、その理由について発表したり書いたりする)		
LESSON 6		76-87 頁	7
WARM-UP 本文	ア(ヴェネズエラについての説明を聞いて概要をとらえる) イ(ある組織と人物についての説明を読んで概要をとらえる) ウ(ある組織や活動について説明し、その活動の意義を説明する)		
COMMUNICATION	エ(美術館へ誘う Eメールを理由を含めて書く)		
LESSON 7		90-101 頁	7
WARM-UP 本文	ア(ある生徒の話の話を聞いて概要をとらえる) イ(説明文を読んで概要をとらえる) ウ(図表を伴う文を読んでその図表が何を表すのか説明する)		
COMMUNICATION	エ(グラフを見て、読み取れた内容について書く)		
LESSON 8		106-117 頁	7
WARM-UP 本文	ア(ある作家についての説明を聞いて概要をとらえる) イ(ある作家についての記事を読んで概要をとらえる) ウ(読んだ本、見たテレビや映画について評価し、伝える)		
COMMUNICATION	ウ、エ(ある本について理由を含めて推薦する)		
LESSON 9		120-131 頁	7
WARM-UP 本文	ア(写真の説明を聞いて概要をとらえる) イ(説明文を読んで問題点と解決策をまとめる) ウ(本文中に出てくる数値について説明する)		
COMMUNICATION	エ(グラフを見て、読み取れた内容について書く)		
LESSON 10		134-143 頁	8
WARM-UP 本文	ア(言葉についての説明を聞いて概要をとらえる) イ(ある考えを述べた文を読んで概要をとらえる) ウ(文章の中で筆者の過去と現在の心情の違いを説明する)		
COMMUNICATION	ウ、エ(友情について自分の考えを発表したり書いたりする)		
BUILDUP 3	イ(自分の考えを、聞き手に伝わるように音読する)	156-159 頁	2
		計	73

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
SOUND PRACTICE	リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	19, 31, 45, 59, 75, 89, 103, 119, 133, 145 頁	
BUILDUP 3		159 頁	
BUILDUP 1	イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。	60-61	2
COMMUNICATION内の Useful Expressions for Communication		17, 29, 43, 57, 73, 87, 101, 117, 131, 142 頁	
LESSON 8, 10 のTARGET	ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。	108, 136 頁	
		計	2

「英語に関する各科目に共通する内容等」

1 言語活動を行うにあたって, [言語の使用場面の例] 及び [言語の働きの例] を以下の箇所に取り上げた。

【言語の使用場面の例】

- a 特有の表現がよく使われる場面 b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面
c 多様な手段を通じて情報などを得る場面

【言語の働きの例】

- a コミュニケーションを円滑にする b 気持ちを伝える c 情報を伝える d 考えや意図を伝える e 相手の行動を促す

図書の構成・内容	該当箇所	言語の使用場面	言語の働き
LESSON 1			
WARM-UP COMMUNICATION	6-7頁 17頁	c (写真) b (自己紹介)	b (望む), c (説明する) c (説明する, 目的を述べる)
LESSON 2			
WARM-UP COMMUNICATION	20-21頁 29頁	b (会話) b (発表)	c (説明する), b (望む) c (理由を述べる)
LESSON 3			
WARM-UP COMMUNICATION	32-33頁 43頁	c (写真) c (インターネット), b (発表)	c (説明する) c (説明する)
LESSON 4			
WARM-UP COMMUNICATION	46-47頁 57頁	b (発表) b (発表)	c (説明する) c (説明する)
LESSON 5			
WARM-UP COMMUNICATION	62-63頁 73頁	c (写真) b (学校生活)	c (説明する) d (賛成[反対]する), c (理由を述べる)
LESSON 6			
WARM-UP COMMUNICATION	76-77頁 87頁	b (発表) a (Eメール)	c (説明する) e (誘う)
LESSON 7			
WARM-UP COMMUNICATION	90-91頁 101頁	b (発表) c (グラフ)	c (説明する) c (描写する), d (意見を述べる)
LESSON 8			
WARM-UP COMMUNICATION	105-106頁 117頁	b (発表) a (買い物), b (発表)	c (説明する) e (薦める)
LESSON 9			
WARM-UP COMMUNICATION	120-121頁 131頁	b (発表) c (グラフ), b (発表)	c (説明する) d (主張する)
LESSON 10			
WARM-UP COMMUNICATION	134-135頁 143頁	b (発表) b (日常会話)	c (説明する) a (あいさつをする), e (助言する)
BUILDUP 3	158頁	a (旅行)	c (理由を述べる)

2 言語活動を行うにあたって, 示された言語材料を以下の箇所に取り上げた。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所
新出単語は中学校教科書の語彙を考慮しつつ, 学習指導要領で定められた400語をやや上回る423語とした。	ア 語, 連語及び慣用表現 (ア)語 a「コミュニケーション英語I」にあつては, 中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語	174-183頁
各課末の VOCABULARY や BUILDUP 2 の EXPANDING VOCABULARY など語彙拡充のページ, FOR READING の読み物のページを学習することにより, さらに増補することができる。		16, 17, 28, 29, 42, 43, 56, 57, 72, 73, 86, 87, 100, 101, 116, 117, 130, 131, 142, 143頁
中学既習を含めた連語及び慣用表現の一覧を巻末に示した。	(イ)連語及び慣用表現のうち, 運用度の高いもの	171-172頁
会話や発表の際に頻繁に用いられる表現については, 巻末にまとめた。		160-164頁

主語+動詞+間接目的語+直接目的語 主語+動詞+目的語+補語	イ 文構造のうち、運用度の高いもの	30頁
主語+動詞+目的語+to不定詞		44頁
主語+動詞+間接目的語+直接目的語(疑問詞で始まる節, if[whether]で始まる節)		74頁
主語+動詞+間接目的語+直接目的語(=疑問詞+to不定詞)		74頁
主語+動詞(=be動詞)+補語(=疑問詞+to不定詞)		74頁
主語+動詞+目的語+補語(=原形不定詞)		88頁
主語+動詞+目的語+補語(=分詞)		88頁
LESSON 1 LESSON 4 LESSON 8 前置詞+関係代名詞 / 非制限的用法 LESSON 4 LESSON 10 非制限的用法 LESSON 1 / LESSON 7 LESSON 1 / LESSON 7	ウ 文法事項 (ア)不定詞の用法 (イ)関係代名詞の用法 (ウ)関係副詞の用法 (エ)助動詞の用法 (オ)代名詞のうち、itが名詞用法の句及び節を指すもの (カ)動詞の時制など (キ)仮定法 (ク)分詞構文	18頁
LESSON 1 進行形		58頁
LESSON 2 現在完了(進行)形		118頁
LESSON 6 過去完了(進行)形		58頁
LESSON 9 未来完了形		144頁
LESSON 10 完了形・進行形の受動態		18, 102頁
LESSON 7 仮定法過去		18, 102頁
LESSON 9 仮定法過去完了 ifのない仮定法など		18頁
LESSON 8 現在分詞		30頁
		88頁
		144頁
		102頁
		132頁
	132頁	
	118頁	

3 2に示された言語材料を用いるにあたって、次の事項に配慮した。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
FOR READINGではイギリス人作家による小説を掲載した。	ア 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。	146-155頁	6
●本文中行間のL-Aなどのマーク ● LANGUAGE FOCUS 内のSTRUCTURE	イ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。	全課本文中のマークのほか18, 30, 44, 58, 74, 88, 102, 118, 132, 144頁	10
LANGUAGE FOCUS 内のEXERCISES		19, 31, 45, 59, 75, 89, 103, 119, 133, 145頁	10
LANGUAGE FOCUS 内のSTRUCTURE	ウ コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造、文法事項などの取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう指導すること。	18, 30, 44, 58, 74, 87, 88, 101, 102, 117, 118, 131, 132, 143, 144頁	
		計	26

4 生徒が英語に触れる機会を充実させるため、以下の諸点に留意した。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
問題の指示文は英語に統一し、外国語を通じてコミュニケーションをとる授業の形態を想定した。	英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。	全課	103
		計	103